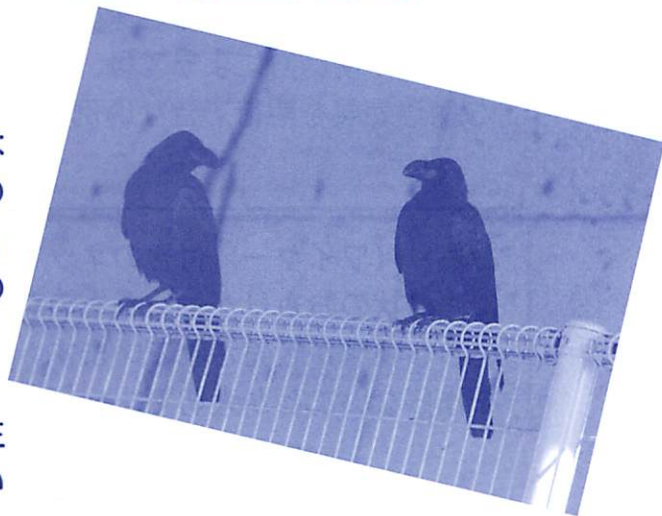


カラスにご注意!!

毎年3月から7月ごろにかけて、市役所にはカラスに関する相談が多く寄せられます。その相談内容は、カラスによる生ごみの散乱被害や、子育て時期のカラスからの攻撃などが主なものとなっています。



都会でカラスが増えた理由は、「エサ」となる生ごみが豊富にあることなどによると言われています。市民の皆さまの一人ひとりの心配りが、カラスによる被害の減少につながります。



巣やヒナには近づかないで

カラスによる人への威嚇・攻撃は子育て時期（3月～7月）に集中しています。これは親鳥がヒナや卵を守るためにとる行動です。

- 被害を防ぐためには、巣の近くを通らないことが一番ですが、どうしても通らなければならない場合には、防護のため帽子をかぶったり傘をさすなどしてください。
- ヒナが巣立つ際に、うまく飛べずに、地面をうろついている時があります。1～2日すれば、巣立ちますので、さわらないようにしてください。ヒナに近づくと、親鳥から威嚇や攻撃されることがあります。
- 巣を撤去するには、法律上、許可が必要になります。捕獲許可や業者の紹介、注意喚起のためのカラーコーン等の貸し出しを市役所農政課で行っていますので、ご相談ください。

回 覧 欄									

※ 「回覧欄」は町会などで、回覧される場合にご利用ください。

裏も見て
ください
ね。

防鳥ネットの効果的な使い方

カラスのごみ被害を防ぐ効果的な方法の一つに防鳥ネットの活用があります。本市においても多くのご家庭やごみステーションでお使いいただいております。しかし、使い方によっては、カラス被害を防げていない場合もあります。効果的な例や効果を期待できない例を写真で紹介します。

効果的な例

おもり（ワイヤー）付きのネット。ほかにも棒状のおもりが付いたものなどいろいろな種類が販売されています。すき間を作らないことが大切です。



ネットをたたんでごみを包むようにします。袋状になったネットも販売されています。



効果を期待できない例



↑ネットの両端にすき間があいている。



↑ごみがネットからはみだしている。



↑カラスに簡単にはずされている。

たとえ防鳥ネットを使用していても、サイズが小さかったり、すき間があると、カラスは簡単にごみを引っ張り出してしまいます。防鳥ネットを使用するときは、防鳥ネット内にきっちりと入れ、すき間ができないようにしましょう。また、風などで飛ばされないようにおもりを使用するなどの工夫をお願いします。

カラスの相談窓口

- 子育て時期のカラスによる威嚇・攻撃などについての相談……農政課 電話：6489-6542
- 市立学校に巣がある場合……学校保健課 電話：6489-6741
- 市立公園に巣がある場合……公園課 電話：6489-6531
- カラスによるごみの散乱、
カラスの死骸の収集についての相談……業務課（家庭ごみ案内ダイヤル：6374-9999）